

重症の患者さんに笑顔で退院していただくために 特定集中治療室のケア。

名古屋記念病院では2009年8月より従来の集中治療室から厚生労働省認定の特定集中治療室として施設を整え活動しています。責任者の副院長武内有城先生と看護師長大場小百合さんにお話しをお聞きました。



副院長 武内 有城 先生



看護師長 大場 小百合 さん

んは一般病棟に入院となりますが、診療の質や内容は従来の集中治療室と変わらない9床のハイケアルーム(病室)を一般病棟に新たに作り、回復期や緊急の患者さんをケアできるようにしました。

■ 特定集中治療室での治療対象となる患者さんは。

■ 施設基準の厳しい特定集中治療室にされました。その意図は。

武内先生／基本的には地域の住民の方に最良の医療を提供するために、より重症の患者さんを受け入れる設備を整えるという意図です。また、当院は今年3月に承認された地域医療支援病院として連携している診療所の先生方や、救急救命に携わっている方々より重症患者さんを「名古屋記念病院の集中治療室はしっかりしているから送りたい」と思っただけの設備と体制を整えました。

■ 特定集中治療室になって13床が6床になりましたが。

武内先生／特定集中治療室の認定には患者さん2人に対して常時1人の看護師が室内に勤務していること、治療室の広さは1床当たり15平方メートル以上であること、バイオクリーンルームであることなどの高額な投資と経費を要する7項目の施設基準があります。病院の構造上の問題なども含めて13床全部を特定集中治療室の基準にするのは難しいということで、6床にて行っています。

従来の集中治療室は重症の患者さんだけでなく、手術後の患者さんとか重症ではないが緊急の患者さんも入院していました。今回、特定集中治療室を作るにあたっては治療・看護度・ケアの質の高さや体制を考えて入室基準を作りました。その入室基準に該当しない患者さ

武内先生／特定集中治療室は、救命を目的として集中的に密度の濃い治療を医師・看護師・その他医療に関わる全スタッフで行なうことの必要な患者さんを収容する場所です。病や事故による生死に関わる重篤な患者さんや、大手術で手術の後に危険を伴うような患者さんが入室されます。

■ 治療方針について。

武内先生／適切な治療法を短期間に集中的に行い、少しでも1日でも早く元気になっていただいて、一般病棟に笑顔で移り戻っていただくことです。患者さんにとっては助かるための場所で、急性期病院では最後の命を助けるための砦です。医師としてはどんな状況でも助けなければいけないと最善の努力をしています。

■ 看護方針とケアの内容について。

大場さん／基本的には治療方針と一緒に、集中的に濃密なケアを24時間提供できることを目的に医師からの指示に基づく看護業務を行なうとともに、治療に伴う合併症予防に努めています。人工呼吸器の挿管チューブを付けていた患者さんが食事を始める時の咀嚼や飲み込みの機能状態を見極めて対応したり、肺炎などの合併症を予防するために口腔ケアに力を入れています。

殆どが緊急の特定集中治療室入院ですからご家族の動揺が大変に大きいこ



と、多くの患者さんは全然お話しできない重症ですから、ご家族へのケアが中心になることが結構多くあります。面会時は必ずご家族につき添い、積極的に声をかけたり、病状をお話したりして安心していただけるよう配慮をしています。

また大変に難しい課題ですが、狭い空間の中で突然天井しか見えなくなり、様々なチューブが入り、モニター音だけで日常の生活音が聞こえない非日常性の状況が、患者さんの精神状態を錯乱させることがあります。この解消には、意識のあるなしに関わらずに患者さんへ積極的な声かけを日常的に行なうとともに、日頃の生活環境を少しでも再現するなどの工夫をご家族の協力を得て行なっています。

更には、新たな体制により患者さんの看護のケア方針を皆で話し合い打合せをする時間を定期的に持てるとともに、医師とのコミュニケーションが今までより密接になり、一人ひとりの患者さんに対するより適切な治療方針や看護のケア方針が充実してきています。

■ 名古屋記念病院の特定集中治療室のアピールポイントは。

武内先生／寝かせて人形のように患者さんを扱うICUの病院が沢山ありますが、当院では患者ケアを重視して看護師が患者さんへしっかりと声かけをし、口腔ケアや家族ケアを含めて少しでも患者さんの環境を整えるということを生懸命に行なっています。それが一番大きな特徴・特色だと思っています。側で見ている、自分が患者になったらこの集中治療室に入りたいなと思っています。